



保存版

Racing Specialities

SZ-Ram4

取扱説明書

ご使用前に必ず本書をお読みください

本書はヘルメットの使用方法、お手入れ方法、使用上の注意を説明しています。正しくご使用していただきため、最後までよくお読みください。また、本書はいつでも読み返せるよう、大切に保管してください。万一、本書を紛失された場合は、弊社『品質管理課』までお問い合わせください。製品の改良などにより、お客様に予告なく仕様の変更を行う場合がありますのでご了承ください。



本書の各図記号は下記のような意味を表しています



左のマークで表記されている事項は、この表示を無視して誤った取り扱いをした場合、使用者が死亡または重傷を負う可能性が高いと思われる事項であることを示しています。



左のマークで表記されている事項は、この表示を無視して誤った取り扱いをした場合、ヘルメットを破損させ、安全装備としての機能を低下させる可能性が高いと思われる事項であることを示しています。

※本製品は日本国内仕様です。国外では使用しないでください。尚、他国には各々の国で必要となる法律、規格等が定められており、日本国内仕様である本製品は適合していません。

安全のため、守っていただきたいこと！

このたびアライヘルメットをお求めくださいましたことを、心より感謝いたします。私共は日本で最も長い歴史を誇るヘルメットメーカーとしてその歴史に恥じぬヘルメットを作り、より多くの方々の安全を守る為に努力しております。しかし、私共が努力して作った製品といえども、いかなる事故にも絶対という訳ではありません。ヘルメットは万一の際に危険の度合を減らす装備の一つであり、安全の一要素にすぎません。ヘルメットの着用に際しては以下の注意事項をよくご理解いただき、常に安全を心がけて運転されますよう、お願ひいたします。

▼あご紐は正しく締めてください。

転倒した際、頭に受ける衝撃の方向は予想することができません。ある時はヘルメットを脱がすような方向から衝撃が来るかもしれません。そんな時、ヘルメットを頭にしっかりと固定しておくのがあご紐の役目です。ヘルメットをかぶっていても、あご紐を締めていなければノーヘルと同じです。ヘルメットをかぶる時には必ずあご紐を締めてください。



▼ヘルメットは必ず試着を行ってください。

安全のためには、「自分の頭に合ったサイズのヘルメットをかぶる」ということが大切です。サイズの合っていないヘルメットでは十分な安全性能を発揮することはできません。ヘルメットは同じサイズ表示であっても、モデルによってフィット感が各々異なります、以下の①～③を試着のポイントとしてヘルメットをお選びください。

ポイント①：ヘルメットはモデル毎にフィット感が微妙に異なるため、必ず希望するモデルを試着すること。

ポイント②：かぶった状態で頭を前後左右にブンブン振っても、頭の動きに対してヘルメットが遅れずに追従すること。

ポイント③：内装素材の改良等により、「きつめを買っておけば、次第に馴染んで緩くなってくる！」といった事は最近ではありません期待できません。ヘルメットをかぶった際の内装のフィット感が全体的に均一であり、尚且つ頭部に部分的な締め付け（圧迫など）を感じないサイズのヘルメットをお選びください。



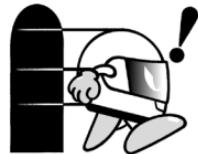
▼走行条件にマッチしたシールド色をお選びください。

周りが暗くなってきたのにも関わらずスマートシールドのままで走行すると、視界が悪化し状況判断し難くなり危険です。長距離ツーリングなどで夜間も走行する場合は、光線透過率が70%以上のシールド（アライヘルメット純正クリアーシールド、ライトスマートシールド）に交換してください。また、取り外したシールドは傷を付けないようにご注意ください。



▼走行中の急激な環境変化に注意する。

走行時におけるヘルメット内の温度は、ほぼ一定ですが、ライダーは高速度で移動しているため周辺環境（気温、湿度）は常に変化しています。そのため、峠道などの高低差が生じる道路、または突然の雨やトンネルに入った（出た）瞬間、ヘルメット内部と周辺環境の急激な温度変化により、シールド面（表面か内面かは、状況によって変化します）に結露（露付き現象）が発生し、急激に曇ってしまう場合があります。このような状況が予想される時には、シールドを微開にしておき、予め内外の温度差を少なくしたり、適切な走行スピードに調節するなどの注意が必要です。



▼ヘルメットを塗装する際の注意。

ヘルメットを塗装する際は、以下の点にご注意ください。まず、ヘルメットの外側を中性洗剤（食器洗い用）で洗い、汚れや油分を落としてから800番程度のサンドペーパーで表面を研磨します。尚、ヘルメット内の衝撃吸収ライナーは塗料に含まれる溶剤に侵されると、溶けてしまい衝撃吸収性が失われてしまいますので、塗料が染み込まないように入念にマスキングしてください。ヘリ部分、ホック類、ネジ孔なども同様にマスキングして、ご使用になる塗料の説明書にしたがって塗装を行ってください。但し、乾燥時に50℃以上の熱を必要とする塗料はご使用できませんのでご注意ください。ホルダーやダクト等の樹脂成型パーツの塗装は、ポリカーボネイト樹脂対応の塗料をご使用ください。



▼衝撃を受けたヘルメットは使用不可！

ヘルメットは衝撃を受けると、その一部が壊れることで衝撃を吸収して頭を守るように作られています。したがって、かぶった状態で衝撃を受けたヘルメットは、例え外観に大きなキズが見られなくても衝撃吸収のために内部構造は壊れています。一度でも大きな衝撃を受けたヘルメットは継続して使用せず、弊社品質管理課まで事故の状況説明と共にヘルメットをお送り頂き、再使用可能かどうか検査を依頼されるか、新しいヘルメットをご購入ください。※検査は無料です。ヘルメットの送料はお客様のご負担となります。



▼走行時のヘルメット操作は危険！

オートバイで走行中に、シャッターの開閉等の操作を行うにはハンドルから一時的に手を離さなければならず、その結果オートバイの運転に支障をきたすおそれがあります。ヘルメットの操作は、停車時に行ってください。但し、シールドの開閉は視界の確保などに必要なので、この限りではありません。



▼ヘルメットの持ち運びには注意！

ヘルメットホルダーにヘルメットを吊り下げたまま走行すると、ヘルメットと車体との干渉により車体可動部の動きを妨げるおそれがあります。そして、ヘルメット本体や、車体とヘルメットを繋いでいるあご紐も傷つけるおそれがあります。また、ヘルメットを持ち運ぶためにヘルメットの窓に腕を通したり、あご紐で腕に吊り下げて運転するのもオートバイの操縦に支障をきたしますので絶対におやめください。



▼ヘルメットの高温乾燥は厳禁！

ヘルメットを50℃以上の熱に曝すと素材に変形や変質が生じ、ヘルメットの性能を大きく損ないます。ヘルメット全体、または取り外した内装を、業務用乾燥機、ドライヤー、ストーブ、各種ヒーター類、電子レンジ、オーブン、各種バーナーやトーチ類などで絶対に乾かさないでください。また、衣類乾燥機、洗濯乾燥機による内装の乾燥も、その乾燥温度が50℃以上に達する場合はお止めください。



▼ヘルメットの改造は厳禁！

ヘルメットの基本構造は頭を何らかの物質と空間で覆い、頭を保護するものです。安全性を高める為には、より多くの物質、空間が必要となり、したがって安全性の代償として僅かとはいえ視界、聴力、運動性が損なわれる可能性があります。例えば、ヘルメットをかぶると音が聞こえにくく感じる例があげられます。これは、高周波のカン高い音がクッション材などによって吸収されることによって音質が変化するためで、通常の会話などの周波数音はほとんど吸収されません。このことを理解いただければ、ご支障なく運転ができます。また、帽体に聽音孔をあけると衝撃吸収性能が低下するだけでなく、かえって風切音が大きくなり、聴力を妨げる原因となります。メーカーに相談せず帽体や発泡スチロールに孔をあけたり、削ったりするのはおやめください。



▼ヘルメットを不安定な場所に置かないで！

オートバイのタンクやシート上など、不安定でツルツルした場所にヘルメットを置くと、ヘルメットが滑り落ちるおそれがあります。ヘルメットは、中身が空の状態で1m以下からの落下であれば、性能に大きな影響しませんが※、落下時にヘルメットの部品が破損した場合、そのまま使用すると走行中に部品が外れたりするおそれがあります。部品が破損した時には、速やかに新しい部品と交換してください。※1m以下からの落下でも同じ所を連続して落させた場合、ヘルメットの性能は損なわれます。



▼ペットの近くにヘルメットを置かないで！

ペットの近くにヘルメットを置かないでください。ヘルメットがおもちゃにして、噛んだり、転がしたり、引きずり回したり、
飼猫が中で寝たりする場合があります。また、齧歯類の場合には内装生地やウレタンクッションを巣作り（寝床）の材料にする
ために齧り取ったりしてヘルメットを破損させるおそれがあります。また、ヘルメットから外れた部品をペットが誤って飲み込むおそれ
もありますので十分ご注意ください。



▼ヘルメットをミラーに引っ掛けないで！

バックミラーにヘルメットをかけると、ミラーの角でシールドが傷付いたり、衝撃吸収ライナーが変形するおそれがあり、変形した
ライナーは衝撃吸収能力に少なからず影響を及ぼします。また、ヘルメットの上に腰掛けるのも厳禁です。ヘルメット裾部のエッジモール
を傷付け、それをきっかけにエッジモールが剥がれたり、削れたりしてヘルメット裾部が露出するおそれがあります。帽体
の裾部は硬いので、それを保護しているエッジモールが無いと転倒時に首や肩など身体を傷つけるおそれがあります。



▼ヘルメットの性能は永久不变ではありません！

ヘルメットは日々の着用に伴い、ヘルメットを構成する素材の老朽、劣化などの経時変化によって、新品時と同じ性能を維持でき
なくなる場合があります。ご使用中のヘルメットに特に異常が見られなくても、SGマーク※の有効期限を目安に、着用開始日から
三年以上経過したヘルメットは買い替えをお勧めします。※財團法人製品安全協会の被害者救済制度



▼長期間ご使用の場合は樹脂成型パーツの点検及び交換を行ってください。

ヘルメットに使用されている樹脂成型パーツ類は、日々の使用による可動部の磨耗や紫外線による素材劣化が生じます。不意の破損を防ぐために定期的な点検を行ってください。特にシールドベースやそれを取り付けるためのネジ、ホルダー（アーム）などはとても重要なパーツですので、キズや磨耗、破損を発見した場合はパーツの早期交換をお勧めいたします。

▼ヘルメットの製造年月について。

ヘルメットの製造日は、ヘルメットの内面に貼られた「検査ラベル」で確認できます。尚、ヘルメットに付属の印刷物（シールドラベルや取扱説明書など）に表示された「年月日」は印刷物の管理コードであり、ヘルメットの製造日とは直接関係ありません。

シールド関連パーツの組み合わせについて
パーツの組み合わせが異なると、ヘルメットにパーツを取り付けられない等の不具合が生じますので、パートご購入の際は十分にご注意ください。

SZ - Ram4適合シールド

スーパーADシスZRシールド

SZ - Ram4適合アーム

スーパーADシスMZアーム

SZ - Ram4適合シールドベース

スーパーADシスZFシールドベース

冷・乾仕様内装について

冷・乾仕様の内装は、路面に直接ヘルメットを置いたり、内装生地よりも硬い物で強く擦ったりすると、ほつれや毛羽立ちが生じる場合がありますのでご注意ください。尚、内装にほつれや毛羽立ちが生じた場合は新しい内装をお買い求めになり、交換を行ってください。

内装生地のコットン化について

ヘルメットの内装生地には化学繊維が使われています。しかし、天然素材以外は使用できないお客様のためにコットン（綿100%）内装の製作ご相談も、アライヘルメット品質管理課で受け付けています。

アライヘルメット品質管理課

☎ 048 - 645 - 3661

受付時間：午前9時～午後6時（土日、祝日を除く）



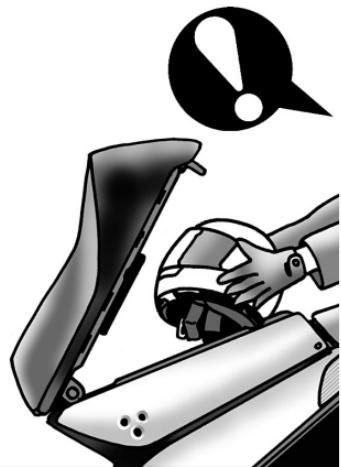
ベンチレーションダクト及び、エアロフィンについて

ダクトやエアロフィンは強力な両面テープでヘルメットに固定されています。無理に取り外そうとすると破損するおそれがあります。

収納BOXにヘルメットを入れる際、収納時のヘルメットの周りに隙間が確保されている事を必ず確認してください。充分な広さが確保されていない場合、BOXの蓋を閉めた際にヘルメットに衝撃や圧力が加わり、ダクトやエアロフィンの変形や破損を生じさせるおそれがあります。

オートバイシート下のヘルメット収納スペースにヘルメットを入れる際、収納時のヘルメットの周りに隙間が確保されている事を必ず確認してください。充分な広さが確保されていない場合、ダクトやエアロフィンの変形や破損を生じさせるおそれがあります。尚、ヘルメットを上下逆さまに収納するタイプでは、ヘルメットの重量がダクトやエアロフィンに直接加わるため、長時間の収納によってズレや剥がれが生じるおそれがあります。

気温の高い日ヘルメットを長時間収納すると、内部温度の上昇によってダクトやエアロフィンを固定する両面テapeの接着力が低下して、ズレや剥がれが生じるおそれがあります。また、収納BOXがマフラーに近い場合も、内部温度の上昇によって同様のトラブルが生じるおそれがあります。



帽体や緩衝ライナーの通気穴を削って大きくしたり、ドリルで穴の数を増やす等の改造は、ヘルメットの安全装備としての機能を大幅に低下させる原因となり大変危険です。ヘルメットの改造は絶対に行わないでください。



当ヘルメットのエアロフィンは固定式で角度の変更は行えません。尚、ヘルメットを持つ時に掴んだり無理に動かすと、エアロフィンが外れてヘルメットが落下するおそれがあります。

根強い人気を誇るオープンフェイスヘルメット【SZ】。その旗艦モデルであるRamシリーズに、空力特性をより向上させた最新モデル、SZ-Ram4が登場しました。

PB(Peripherally Belted) - cLc帽体を採用

PB - cLcの前頭部は、窓カットと並列に配された【スーパーファイバーベルト】によって強化され、サイドからリヤにかけては従来のcLc構造に加え、【スーパーファイバークロス】で補強を行い、帽体剛性が更に高められています。この新開発帽体により、緩衝ライナーの発泡倍率を、従来比で10%程度下げることが可能となり「帽体は強固に、頭を包むライナーは柔らかく！」というヘルメットの理想に、また一步近づきました。

先進のベンチレーションシステム

スイッチの大型化による操作性の向上と、気流を整えるエアロフィン2を装備した【ディフューザーシステムType10】。同様に大型スイッチを備え、スリム設計で空気抵抗を抑えた【デルタダクト5】のコンビネーションで頭部を強力にクールダウン。ブローダクトからの外気は【インナーサイドダクト】によって、こめかみ部分へダイレクトに導かれる。【エキゾーストダクト】と、ネック部分に設けられた【ENノズル】は、ヘルメット内の下部に停滞する空気の排出を行う。



- ①デルタダクト5
- ②R4ハイパーリブ
- ③エアロフィン2
- ④ディフューザーType10
- ⑤サイドエキゾーストダクト
- ⑥ENノズル



気流をコントロールするエアロフィン2搭載

ディフューザーに設置されたリアウイングspoiler【エアロフィン2】によってヘルメット上部の気流を整え、ヘルメットの後方に生じる乱気流を抑えて高速走行時のヘルメットの挙動を安定させます。

新設計内装による快適なかぶり心地

冷・乾仕様の新設計【Ram4フルシステム内装】は、フルフェイスタイプヘルメットにも匹敵する、包み込むような優れたフィッティングを実現。

ヘルメットのサイズを自分好みにカスタマイズ！

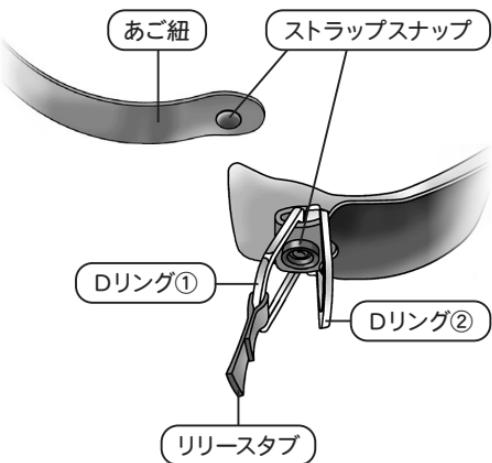
SZ-Ram4イヤーカップ及び、SZ-Ram4システム内装の内部には【調節パッド】が収められています。この調節パッドを取り除くことで、それぞれのパッドの厚みを約5mmずつ緩くすることができます。

目次・ページ		E	シールドの外し方・14~15	J	ストラップカバーの着脱・24~25
A	あご紐の正しい締め方・10~11	F	シールドベースの着脱・15	K	システム内装の着脱・26~27
B	ブローシャッターの操作・12	G	シールドの付け方・16~17	L	ヘルメットのお手入れ・28~29
C	シールドの開閉・12	H	シールドとアームの着脱・18~19	M	ヘルメットのサイズ調節・30
D	ベンチレーションの操作・13	I	イヤーカップの着脱・20~23	N	オプションパーツリスト・31

A あご紐の正しい締め方

あご紐を正しく締めていない場合、万一の際にヘルメットの安全装備としての機能が十分に発揮できません。当ページを良くお読みになり、あご紐を正しくご理解いただきますよう、お願ひいたします。

あご紐の各部名称

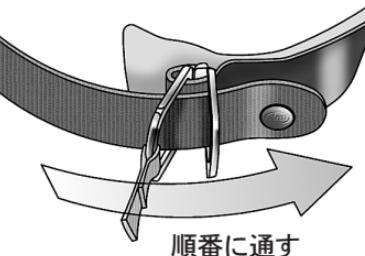


1. 二つのDリングに通す

あご紐を、Dリング①→Dリング②の順に通します。

※あご紐を通す際には、途中で捩れさせないようにご注意ください。

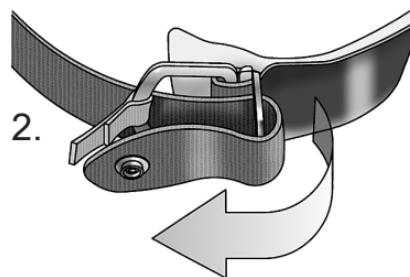
1.



2. あご紐を180° 折り返す

二つのDリングにあご紐を通したら、あご紐の先端を軽く引っぱって弛みを取り除きながら180° 折り返します。

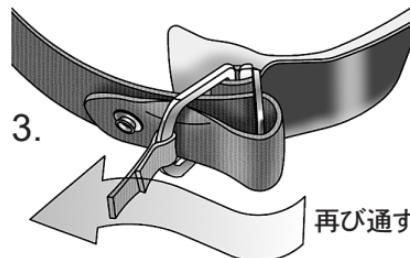
2.



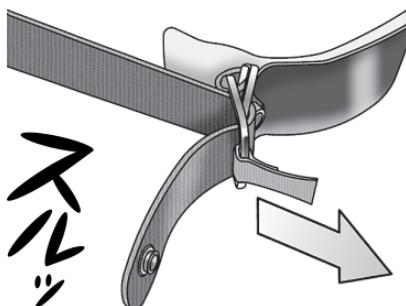
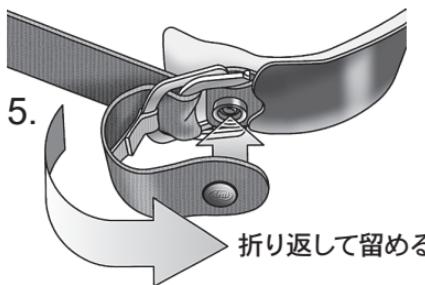
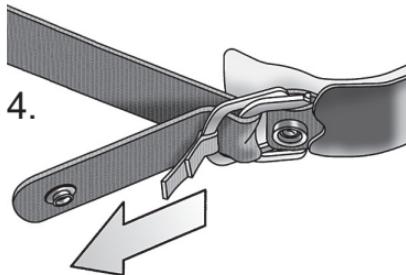
3. Dリング①に再び通す

折り返したあご紐の先端を、Dリング①に通します。

3.



あご紐を正しく締めていない場合、転倒時の衝撃でヘルメットが脱落し、死亡または重傷を負う危険性があります。



4. あご紐を引っ張る

あご紐の先端部を持って矢印の方向に引っ張ると、あご紐が締まります。

あご下とあご紐の間に指を1~2本差し入れて襟元を直すように左右に動かしても、指の背が常にあごに触れる位が適切な締め具合です。

※人差し指と中指の一番太いところが直径2cm未満の方は指二本で、それ以上の方は、人差し指一本で確認しましょう。



あご紐が乗車服やレインウェアなどの襟元の面ファスナーに付着すると後方確認の際に首の動きを妨げるおそれがあります。また、あご紐が面ファスナーへ付着すると毛羽立ちの原因になります。



5. 余った先端部を留める

余ったあご紐の先端部をストラップスナップで留めることで、あご紐の風によるバタ付きや、襟元の面ファスナーへの付着を防止できます。

リリースタブの使い方

あご紐先端のストラップスナップを外し、リリースタブを摘んで矢印の方向に引っ張ると、あご紐を簡単に緩めることができます。

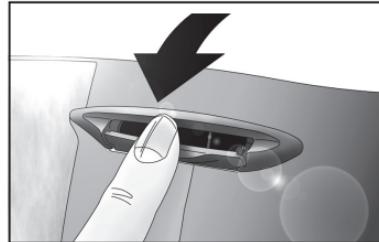
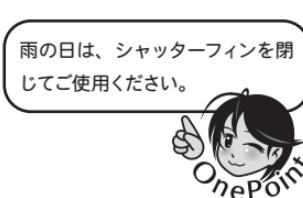


ストラップスナップを留めただけの状態であご紐を持たないでください。ストラップスナップが外れ、ヘルメットが落下して破損させるおそれがあります。



B ブローシャッターの操作

シャッターフィン中央の膨らみに指をかけて引き下げる開きます。閉じる時は、シャッターフィンを止まる位置まで押し上げます。



C シールドの開閉

①シールドオープン（シールドを開く）

シールドオープンには、シールドロックの解除を行う必要があります。シールドの左下部に指をかけ、外側に少し広げながら上げると、シールドロックの解除とシールドオープンが同時にできます。

②シールドクローズ（シールドを閉じる）

シールドクローズはシールドの左下部を持ち、止まる位置まで下ろします。シールドを外側に広げる動作（ロック解除）を行わずにシールドを上げてみて、シールドが開かなければOKです。



シールドロックが不完全な状態で走行すると、風などの外圧によってシールドが不意に開いてしまい危険です。



ロックの解除の動作を行わずにシールドを無理に開くと、ロックネジやシールドを保持しているアームが破損します。



D ベンチレーションの操作

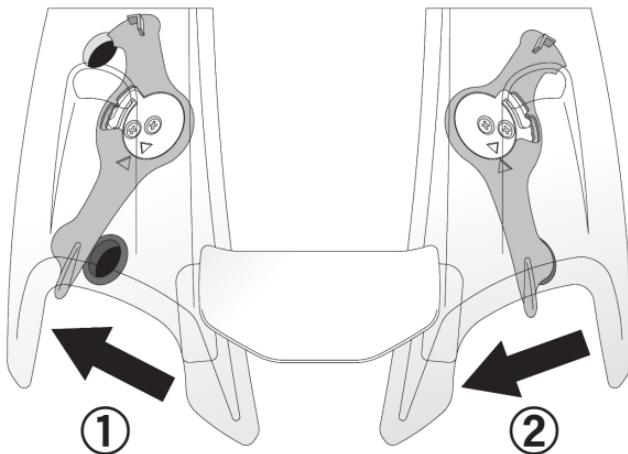
前方ダクトの操作

ディフューザーインテークとデルタダクト5のシャッター開閉は、ダクト上にあるスイッチで行います。スイッチ後方を押すとシャッターが開き、前方を押すとシャッターは閉じます。



ディフューザーの操作

排気を行う場合は、左右のレバーを下図①のように外側に動かして排気孔を開きます。排気を停止する場合は、左右のレバーを下図②のように内側に動かして排気孔を閉じます。



雨の日は、前方のダクトを閉じてディフューザーのみ開く「雨天換気モード」をお勧めです。



E シールドの外し方

シールドの着脱、アームの分離合体を行う時は必ず手が乾いた状態で行ってください。油分や水で手が湿った状態で操作すると手を滑らせ、誤った操作や思わぬケガをしてしまうおそれがあります。



シールドの取り外し手順

- ①シールドを全開位置まで上げると、アーム下に【リリースレバー】が出現します。
- ②リリースレバーを矢印（刻印）の方向へ動かすと、カチッ！と音がして止まります。
- ③反対側のリリースレバーも、カチッと音がして止まる位置まで動かしてください。



「爪を傷めそうでちょっと心配！」
という方は、ヘルメットに傷を付け
ないように注意して、ボールペンの
軸で押してください。



④左右のレバー操作を終えたら、シールドを全開位置から更に開いてください。すると、シールドがヘルメットより外れます。



F シールドベースの着脱

■通常のご使用ではシールドベースを取り外す必要はありません。しかし、シールドベースの交換を行う場合は、以下の説明に従って作業を行ってください。

シールドベースの外し方

十円硬貨等で、シールドベースを固定する片側二本づつ(計四本)のネジを左(反時計回り)に回して取り外します。

シールドベースの付け方

シールドベースの左右を刻印で確認します。左右を確認できたら、シールドベースをヘルメットに取り付けます。ネジは初めに手で回し、確実にネジ穴に入っていることを確認してから硬貨で締め付けてください。

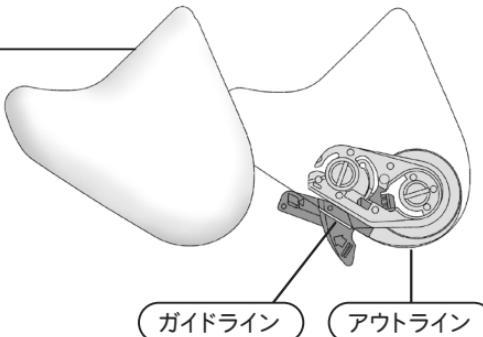


G

シールドの付け方

シールドをベースに取り付ける時には、シールド着脱ポジションに、アームの位置と角度を合わせる必要があります。

しかしベースはアームの下に隠れ、アームとベースの接合ポイントを直接目で確認しながら取り付けることができません。そこで、ベースにはアームを取り付ける目安になる【ガイドライン】と【アウトライン】が設けられています。

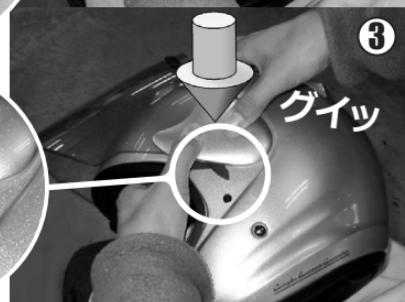


シールドの取り付け手順

①まず最初に、アーム下側の形状がベースのガイドラインとアウトラインに合致するようにアームをかぶせます。

②アームをベースに軽く押し付けながら、少しづつ上下左右に動かすと、アームがベースにピタッ!と入り込む場所があります。

③アームが入り込んだ位置で、アームをヘルメット側に押し付けると、パチン!と音がしてリリースレバーが矢印の方向に移動します。これが、アームがベースに入った合図です。





④ヘルメットを持ち替え、反対側も同じ手順でアームを取り付けます。



⑤ヘルメットを落とさないようにしっかりと安定させ、左右のアームを手のひらで押さえます。



⑥アームを両手で押さえたまま、シールドを下げるときの取り付けが完了します。

⑦取り付けが完了したら、シールドを全開から全閉へと数回上下させてその作動具合の確認を行います。シールドの動きがスムーズではない場合やアームがヘルメットから外れた場合は、再度取り付けを行なってください。



シールドの取り付けが不完全だと、シールドを上下させた際に外れてしまいます。

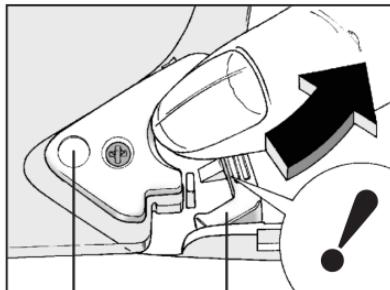


H シールドとアームの着脱

シールドとアームの分離

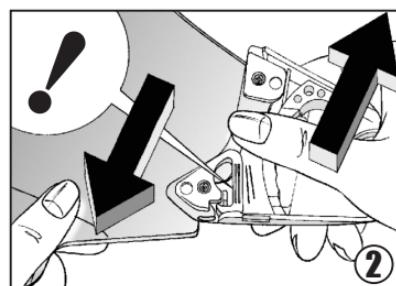
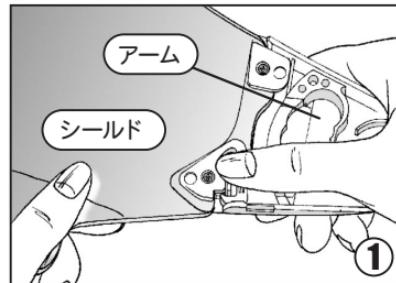
■シールドとアームの分離合体は、ヘルメットから取り外してから行います。

図①のように、アームとシールドを持ってアンダーブラケットのシールドストッパーに指をかけます。そして、矢印の方向にカチッ！と音がするまで引くとロックが解除されます。



アンダーブラケット シールドストッパー

ロックが解除できたらアームとシールドを図②のように、おのの矢印の方向にスライドさせてください。（スライド途中で、シールドストッパーがカチッ！と元の位置に戻ります）最後に、図③のようにシールドを上方に回転させ、シールドを抜き取ります。（反対側も同じ手順で取り外しを行ってください）



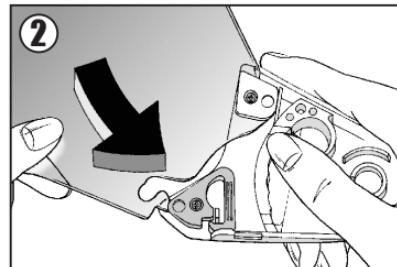
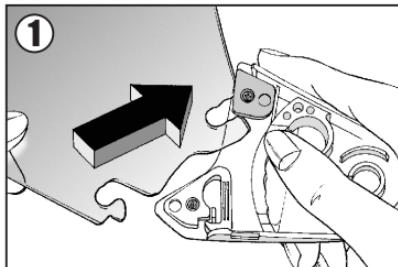
シールドを外した後、アーム内のシールドストッパーが元の位置に戻っていることを確認してください。ロック解除位置のまま放置するとロックがかかりにくくなる場合があります。



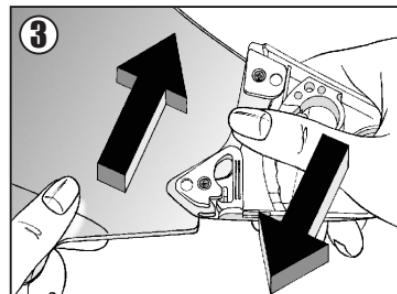
元に戻った状態↑

シールドとアームの合体

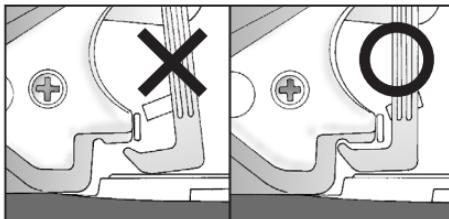
まず、シールド上部を、アッパープラケットの隙間に図①のようにして差し込みます。アッパープラケットにシールドがしっかりと入り込んだら、図②の矢印の方向に回転させ、シールド下部をアームとアンダーブラケットの隙間に差し込みます。



シールド下部がアンダーブラケットに入り込んだら、アームとシールドを、各々図③の矢印の方向にスライドさせてください。(シールドストッパーがカチッ!とロックされるまでスライドさせてください) 最後に、シールドストッパーが確実にシールドにかかっていることを確認してください。

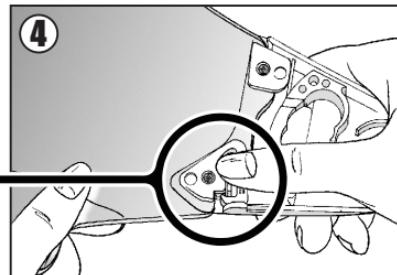


シールドがロックされていることを確認してください。ロックが外れた状態だと、シールドが外れるおそれがあります。



ロック外れ

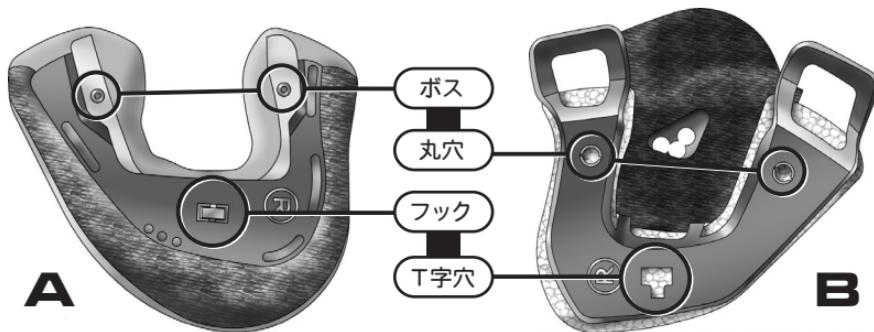
ロック状態



I イヤーカップの着脱

【A】は、システムイヤーカップ（右）を裏から見た図です。システムイヤーカップは、上部の二つのボスと、下部のフックでベースに取り付けられています。

【B】は、ヘルメット側のベースの図です。ベースには上部にニカ所の丸穴と、下部にT字型の穴があります。カップ、ベース共に左右を見分ける刻印があり、同じ刻印のものがペアとなります。

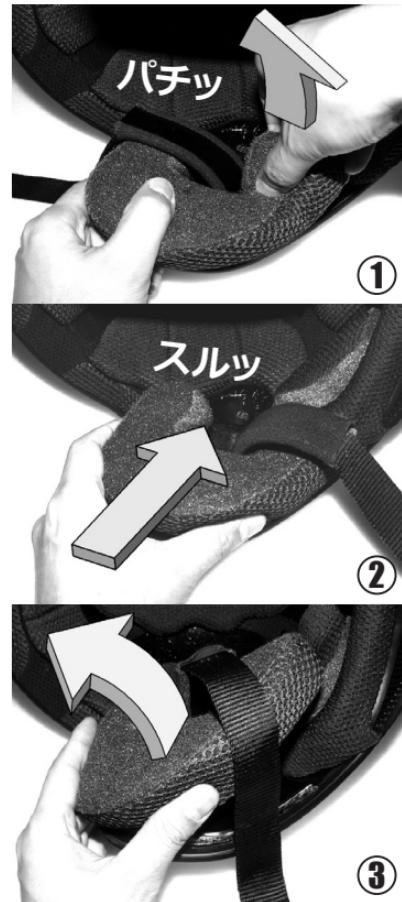


イヤーカップの外し方

①まず初めに、上部2ヶ所のボスを先に外します。イヤーカップ上部の裏に指をかけ、内側に倒すように引っ張るとパチッ！と外すことができます。

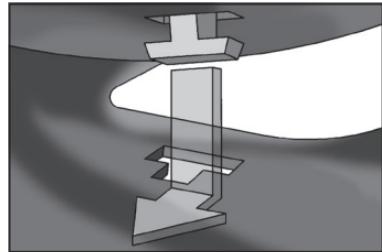
②左右のボスが外れたら、イヤーカップ全体を上方に（ヘルメットの天井に向けて）スライドさせます。

③スライドし終わったらイヤーカップを取り外すことができます。片方を取り外したら、ヘルメットを持ち替えて反対側も同じ手順で取り外してください。



イヤーカップの付け方

①ベースの刻印を確認して、ペアのイヤーカップを用意します。最初にカップ裏面の下部のフックをベースのT字穴に差し込みます。



②フックがT字穴に収またら、イヤーカップを押さえつつ、全体を下方に（ヘルメットの裾に向けて）スライドさせます。この時、右写真のように、あご紐が布の面を上向きにして、システムイヤーカップ上に出ているのを確認してください。

③スライドが完了したら、イヤーカップ上部の左右のボスを、カップの上からパチンと音がするまで押し込んでください。取り付けが完了したら、ヘルメットを持ち替えて反対側も同じ手順で取り付けてください。

フック取り付けが不充分だと、両方のボスを差し込むことができませんのでご注意ください。



イヤーカップを付けないままで使用しないでください。また、取り付けの際、イヤーカップとベースとの間にあご紐を挟み込むと、あご紐の機能が損なわれ危険です。



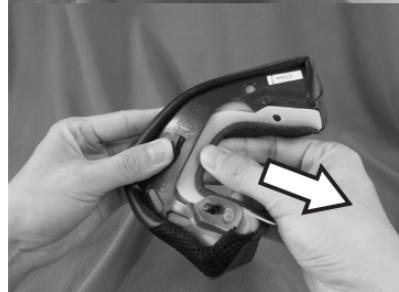
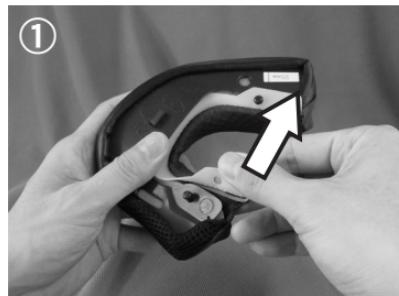
イヤーカップの内部には【調節パッド】が収納されています。この調節パッドを取ることで頬部のパッド厚を約5mmずつ緩くすることができます。

※調節パッドの単品でのバーツ販売は行っていません。

調節パッドの取り方

■予め、イヤーカップをヘルメットから外しておきます。

①イヤーカップ裏面の二ヶ所のボスにはめ込まれたU字プレートを外し、イヤーカップに差し込まれているU字プレートの下の部分も引き抜きます。



②U字プレートを端からクルッ!と180度ひっくり返すと、写真のようにイヤーカップ内部のウレタンパッドが露出します。布全体を慎重にひっくり返してください。



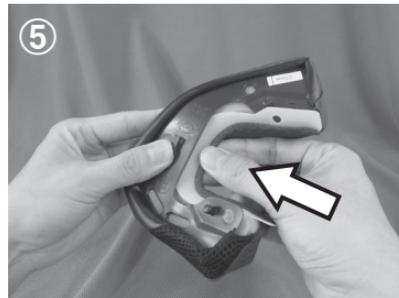
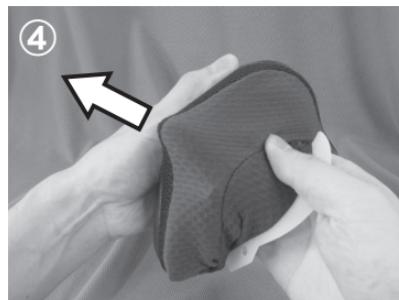
③パッドの表面に貼り付けられた調節パッドを取り除きます。この調節パッドはイヤーカップ内のパッド本体に粘着テープで部分止めされているので、少しづつ丁寧に剥がしてください。

※調節パッドを再度取り付ける場合は、市販の両面テープをご利用ください。尚、調節パッドの単品でのバツ販売は行っていません。

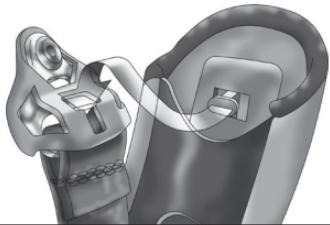
④U字プレートをひっくり返して布を被せますが、この時パッドの角を潰さないように注意してください。写真のように角部分の布を内側から指で押し出し、パッドの角をブクッ！と回復させます。

⑤U字プレートは、写真のように下から先に差し込み、その後二ヶ所のボスにはめ込みます。最後に、イヤーカップ全体の形を整えてヘルメットに取り付けます。

イヤーカップ内の調節パッド
を剥がす際、本体側のパッド
を引きちぎってしまわないよ
うにご注意ください。



J ストラップカバーの着脱



ストラップカバーは、カバー根元に設けられた【フック】が、あご紐アンカー部の【ハンガーマウント】のスリットに差し込まれて固定されています。



OnePoint

ストラップカバーの取り外し

■システムストラップカバーの着脱は、イヤーカップを外してから行います。

①ストラップカバー根元部分に縫い付けられた【フック】をしっかりと掴みます。

②【フック】を上に（ヘルメットの天井に向けて）スライドさせて、【ハンガーマウント】から抜き取ります。

③【フック】が外れたら、ストラップカバーをあご紐から抜き取ります。

ストラップカバーの取り付け準備

まず、ストラップカバーの左右表裏の確認を行います。カバーの表裏は、かぶった際に肌に接触する方が【表】、合成皮革が縫い付けられている方が【裏】になります。



左ストラップカバー（裏）

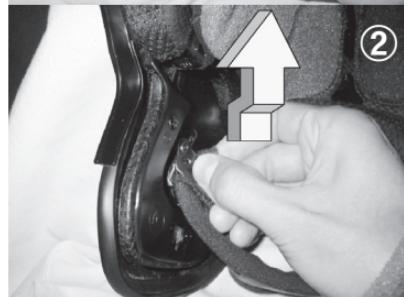


右ストラップカバー（裏）

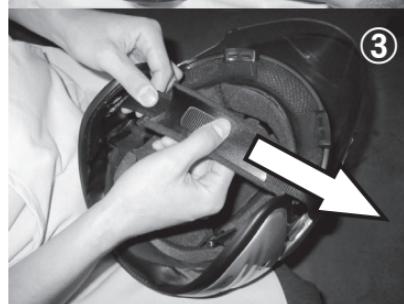


グイッ

①



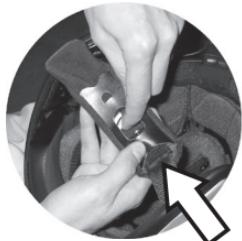
②



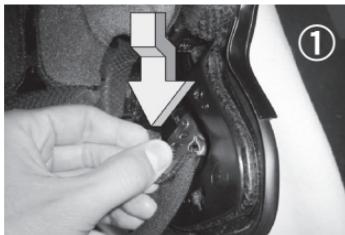
③

左側ストラップカバーの取り付け

- ①左側（L）のストラップカバー裏面を手前に、あご紐はDリング根元のストラップスナップ（凹）を手前に向け、カバーに通します。
- ②ストラップカバーのフックを、ストラップアンカーのT字形の穴の上部にはめ込み、下に向けて止まる位置までスライドさせます。



カバーの途中に開いている穴に指を入れてDリングを送り出すと、楽に通すことができます。



①



②

右側ストラップカバーの取り付け

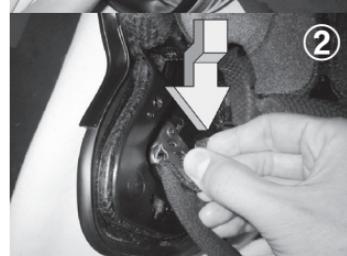
- ①右側（R）のストラップカバー裏面を手前に、あご紐は先端のストラップスナップの飾りボタン（Arai刻印入り）を手前に向けてカバーに通します。
- ②ストラップカバーのフックを、ストラップアンカーのT字形の穴の上部にはめ込み、下に向けて止まる位置までスライドさせます。



カバーの途中の穴に指を入れ、あご紐を送り出すと、楽に通すことができます。



①



②

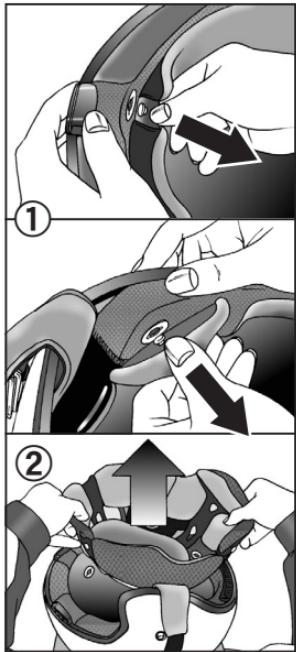


ストラップカバー未装着の状態で、ヘルメットを使用しないでください。また、ストラップカバーの取り付けが不十分だと、ヘルメットをかぶる際に、ストラップカバーが外れるおそれがあります。

K システム内装の着脱

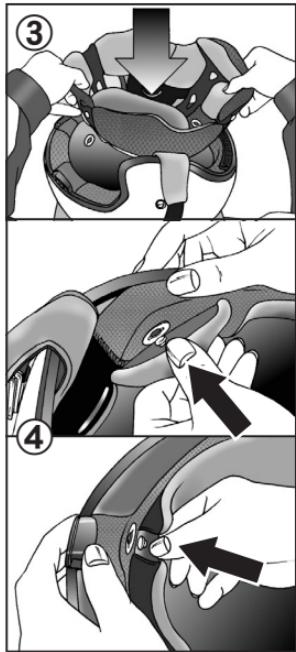
内装の外し方

- ①システム内装は四つのスナップで取り付けられています。それぞれのスナップのなるべく近くを持ち、ヘルメットの中心に向けて引っぱってスナップを取り外してください。
- ②システム内装をヘルメットから取り出します。



内装の付け方

- ③内装の前後の向きに注意してヘルメット内に入れます。
- ④システム内装のそれぞれのスナップ位置を合わせて押しこみます。取り付け完了後に内装の歪みを整えてください。



ホック及び内装枠の破損防止のため、全てのホックを外してから内装を取り出してください。また、乗用手袋をヘルメット内に入れるとき、手首部分の面ファスナーが内装に貼り付いたり、手袋に装備されたプロテクターやエアーダクト類がヘルメット内を傷める場合がありますのでご注意ください。



システム内装のサイドパッドのポケット内には【調節パッド】が収納されています。この調節パッドを取ることで側頭部のパッド厚を約5mmずつ緩くすることができます。※調節パッドの単品でのパーツ販売は行っていません。

調節パッドの取り方

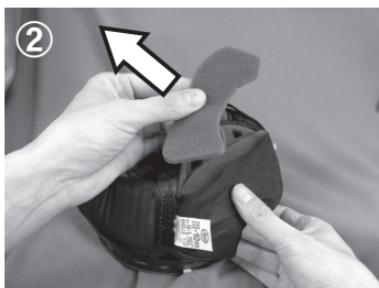
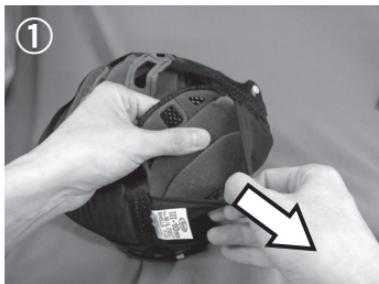
①予め、システム内装をヘルメットから外しておきます。そして、システム内装のサイド部ポケットを広げます。

②次にポケット内の調節パッドを取り除きますが、この調節パッドはサイドパッド本体に粘着テープで部分止めされているので少しづつ丁寧に引き剥がしてください。

※調節パッドを再度取り付ける場合は、市販の両面テープをご利用ください。

③ポケットを閉じてシステム内装の形を整え、ヘルメットに取り付けてください。

本体側のパッドをちぎってしま
わないようにご注意ください。



J ヘルメットのお手入れ

パーツ類のお手入れ（中性タイプの台所用洗剤をご使用ください）

アームなどのパーツ類は、洗剤を適量の水で薄め、柔らかい布にふくませてパーツ表面の汚れを拭き取ってください。



お手入れにアルコールを含むクリーナー類やシンナー系の溶剤、ガソリンなどを使用すると、塗装面や素材が侵されますので絶対に使用しないでください。



シールドのお手入れ（中性タイプの台所用洗剤をご使用ください）

シールド表面にオイルやワックス、ガソリンなどが付着すると、目に見える変化がなくとも素材が侵されてしまいますので、シールドの定期的なクリーニングをお勧めします。クリーニングは、薄めた中性洗剤でシールド表面の油分などを洗い流し、流水で十分に濯いでから柔らかい布で水分を拭き取ります。



シールド素材は耐衝撃性に優れたものですが、アルコールを含むクリーナーやシンナー系溶剤、ガソリンなどが付着した場合や、車窓用の撥水剤などを使用した場合、素材が侵されシールドにヒビ割れが発生し、万一の衝撃時に破損するおそれがあります。



シールドに虫などが付着して硬くなってしまっている場合は、シールドを真水に浸けて柔らかくしてから、薄めた中性洗剤を染み込ませた柔らかい布で拭き取ってください。尚、中性洗剤を薄めた液中にシールドを長時間漬け込むのは絶対にお止めください。

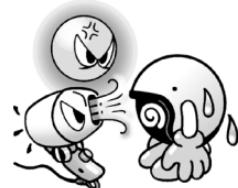


ヘルメット本体の洗い方（中性タイプの台所用洗剤をご使用ください）

ヘルメット本体を丸洗いする時は、ヘルメットからシールド、着脱式内装を取り外し、ヘルメット全体を中性洗剤を少量溶かした水に浸し、ヘルメット表面、あご紐、固定内装を押し洗いし、その後真水で充分に濯いでペーパータオルなどで水分を取り除き、日陰の風通しの良い場所にヘルメットを逆さまに吊して自然乾燥させてください。



乾燥時、ドライヤー等で50℃以上の熱を加えたり、ヘルメットを長時間日光にさらし続けると、ヘルメット内の衝撃吸収ライナーが熱や太陽光に含まれる紫外線により変形、変質し、衝撃吸収性が失われてしましますのでご注意ください。



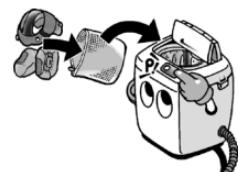
内装のお手入れ（中性タイプの洗濯用洗剤をご使用ください）

フルシステム内装（システム内装、イヤーカップ、あご紐カバー）をヘルメットから取り外して手洗いを行いますが、システム内装は内装の枠を折り曲げたり変形させないよう、やさしく洗ってください。そして、洗い終えたら水でよく濯いで水分を取り除き、風通しの良い日陰で自然乾燥させてください。



冷・乾仕様の内装は、路面に直接ヘルメットを置いたり、内装生地よりも硬い物で強く擦ったりすると、ほつれや毛羽立ちが生じる場合がありますのでご注意ください。尚、内装にほつれや毛羽立ちが生じた場合は新しい内装をお買い求めになり、交換を行ってください。

内装を洗濯機で洗う際は、必ず「お洗濯ネット」に入れ、ソフト、弱、手洗いなど素材に負担をかけないモードで洗ってください。また、衣類乾燥機や洗濯乾燥機による内装の乾燥につきましては、その乾燥温度が50℃以上に達する場合はご使用頂けませんのでご注意ください。



※乾燥温度については、衣類乾燥機や洗濯乾燥機に付属している取扱説明書をご確認ください。

M ヘルメットサイズの調節（オプションパーツご利用の場合）

■標準設定の内装ではヘルメットがきつい方やゆるい方のため、厚さの異なる内装に替える事で、頭周りと頬部のサイズ調節が行えます。システム内装とイヤーカップの、それぞれ厚さの異なるオプションが用意されていますが、交換される場合には、お持ちのヘルメットの標準設定内装をご参照のうえ、お選びください。

システム内装による頭回りの調節

54cmと55 - 56cm、そして57 - 58cmと59 - 60cm未満には、それぞれ共通の内装枠が使用されています。この事により、右表のような頭周りの微調整が行えます。

内装枠の大きさはI～Vで表示されています。この枠のサイズが異なると取り付け用ホックの位置も異なり、内装を取り付けることができませんのでご注意ください。

サイズ	システム内装のラベル表示		
54cm	II-7mm	II-10mm	-
55 - 56cm	-	II-7mm	II-10mm
57 - 58cm	III-7mm	III-10mm	-
59 - 60cm未満	-	III-7mm	III-10mm
61 - 62cm未満	-	IV-7mm	-
フィット感	ゆるくなる	標準	きつくなる

イヤーカップによる頬部の調節

イヤーカップは内部のウレタンパッドの厚みが異なる以外は全て共通です。基本的に全サイズのヘルメットに、どの厚さのイヤーカップも取り付けることができます。しかし、イヤーカップを標準設定よりも極端に厚くしたり薄くしたりすると、ヘルメットのかぶり心地を大きく損なう場合があります。

サイズ	イヤーカップの厚み		
54cm	25mm	30mm	-
55 - 56cm	20mm	25mm	30mm
57 - 58cm			
59 - 60cm未満	15mm	20mm	25mm
61 - 62cm未満	-	15mm	20mm
フィット感	ゆるくなる	標準	きつくなる

N

オプションパーツリスト

パーツ名		部品番号
	ミラー	
スーパー・アドシス ZRミラーシールド	ライト スモーク	シルバー
		レッド
		ブルー
		グリーン
	セミ スモーク	シルバー
		レッド
		ブルー
		グリーン
スーパー・アドシス ZRシールド	クリア	1565
	スモーク	1566
	ライトスモーク	1567
スーパー・アドシス MZアーム	グラスホワイト	5201
	グラスブラック	5202
	アルミニナシルバー	5203
	フラットブラック	5211
	サファイアシルバー	5216
スーパー・アドシスZFシールドベース		3016
スーパー・アドシスネジセット		2511

パーツ名	部品番号
デルタダクト5	グラスホワイト
	グラスブラック
	アルミニナシルバー
	フラットブラック
	サファイアシルバー
SZ-Ram4 イヤーカップ	15mm
	20mm
	25mm
	30mm
	II - 10mm
SZ-Ram4 システム内装	II - 7mm
	III - 10mm
	III - 7mm
	IV - 7mm
	ZFストラップカバー(グレー)

アライヘルメットではヘルメットやパーツ類のお客様への直接販売を行なっていません。
 お客様のお近くのオートバイ用品取扱店にてご注文及びご購入ください。オプションパーツの価格につきましては、アライ製品のカタログやアライヘルメットのホームページをご参照ください。尚、通信料はお客様のご負担となりますので、予めご了承ください。



株式会社アライヘルメット

〒330-0841 埼玉県さいたま市大宮区東町2-12 ☎048-641-3825

ヘルメットに関するご質問ご相談は品質管理課まで。

☎048-645-3661 受付時間：午前9時～午後5時（土曜・日曜、祝日を除く）